佐渡の貴重な植物群落 11

大野亀のトビシマカンゾウ群落

伊 藤 邦 男

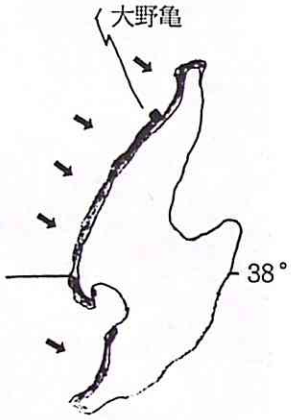
Ⅰ、トビシマカンゾウ

トビシマカンゾウ *Hemerocallis dumortieri* var. *exaltata*（ユリ科ワスレナグサ）は海辺のカンゾウである。日本海の飛島、酒田海岸及び佐渡に分布し、発見地の飛島の名を冠しているが、群落の規模の大きさから、サドカンゾウと名付けたいほどである。　従来、本州東北部から北海道、南千島産のものは、花柄は短いかほとんどなく、花被片が厚質なのでエゾゼンテイカとし、本州中部のものは花柄がはっきりし、花被片が薄いのでゼンテイカ（ニッコウキスゲ）と区別していたが、地理的に一応わけられるとしても、形態的には連続してわけることがむずかしい。それで現在は一緒にしてゼンテイカ（エゾゼンテイカ、ニッコウキスゲ）としている。『日本の野生植物Ⅰ』（1982）による。

トビシマカンゾウはゼンテイカに似るが、大型で花茎 1～1.5m、花柄は無柄と有柄が混じり、ゼンテイカの花序が3～10花に対し、花序は15～30花と多く、ゼンテイカの島嶼型とされている。

Ⅱ、生態分布

佐渡での分布は冬の北西の季節風に直面する季節風帯の海岸草原で、海岸風衝樹林のカシワ林帯と一致する。但し、季節風帯という自然条件だけでは成立しない。毎年刈りとり火入れの行なわれる海岸ススキ草原であり、人為条件が必要である。この草原は村のカヤ場、飼育中の冬の餌となるカヤの採草原である。刈り取りと火入れに強いのがトビシマカンゾウとススキ。1000年以上の間断なき刈り取りと火入れにより、5～6 月はカンゾウ原に 9～10月はススキ原と、季節すみわけによる群落が成立した。



トビシマカンゾウ
分布域
➡ は冬の季節風

大野亀より二ツ亀を望む

大野亀のトビシマカンゾウ

Ⅲ、大野亀

大佐渡海岸の北に位置する大野亀（両津市願）海に突出した大岩塊で“大亀”状で最高点166.8mその岩頂から裾野にかけて、およそ30haの海岸草原で、大佐渡の北の海岸を代表する景勝地でもある。

昔から１日花で咲いて１日でしぼむが、次々と咲いて花期は５月の下旬から６月上旬と長い。６月上旬はカンゾウ祭りが行なわれんにぎわう。

Ⅳ、植生

表１、大野亀のトビシマカンゾウ群落

階層	優占種	高さ	植被率	種数	環境
草本層	トビシマカンゾウ	0.5 m	95 %	7 種	大野亀原野
組成	トビシマカンゾウ 3•3　オオバナミミナグサ 2•2　エゾタンポポ 1•2　ヨモギ 1•2　オオウシノケグサ 1•2　シシウド 1•2　スイバ 1•1				1982-5-2 伊藤邦男 調査

表２、大野亀のトビシマカンゾウ群落

階層	優占種	高さ	植被率	種数	環境
草本層	トビシマカンゾウ	0.6 m	85 %	29 種	大野亀原野、海抜 90m
	トビシマカンゾウ 4•4　ヨモギ 2•3　ススキ 1•2　オニノゲシ 1•1　ヒロハ（ハマ）イブキボウフウ 1•1　ナンブアザミ 1•1　クズ 1•1　ビロウドトラノオ +2　ヒメムカシヨモギ +2　コシノホンモンジスゲ+2　オオ				
組成	ウシノケグサ +2　ツリガネニンジン +2　コウゾリナ +　ミミナグサ +　ハマハタザオ +　エビヅル +　アキカラマツ +　ミヤマシシウド +　ホタルサイコ +　シオデ（サドシオデ）+　スズメノヤリ +　タチツボスミレ +　タムラソウ +　シロザ +　オオイタドリ +　メノマンネングサ +　オトコヨモギ +　ハマハコベ +　ツリガネニンジン（ハマシャジン）+				1975-5-28 松井 浩 調査

Ⅴ、植物相

大野亀の植物相は 1977•1980•1982 年の調査により、シダ植物５種、裸子植物３種、双子葉離弁類93種、合弁類63種、単子葉30種の計194 種が確認され「名勝　佐渡海府海岸保存管理計画策定報告書」（1984）に報告されている。

そのうち主要な貴重種は次のようなものがある。

①アイアシ（海岸塩沼植物）②イソスミレ（タチツボスミレの海岸型）③ハマイブキジャコウソウ（イブキジャコウソウの海岸型）④エゾノコギリソウ（北方要素・南限）⑤オオバノミミナグサ（北方要素）⑥カセンソウ（稀産）⑦クロバナヒキオコシ（北方要素）⑧サドシオデ（シオデの海岸型）⑨トビシマカンゾウ（ゼンテイカの島嶼型）⑩ハチジョウナ（北方要素）⑪ハマナス（日本海要素）⑫ハマハコベ（北方要素）⑬ハンゲショウ（稀産）⑭ホクロクトウヒレン（日本海要素）

Ⅵ、民俗

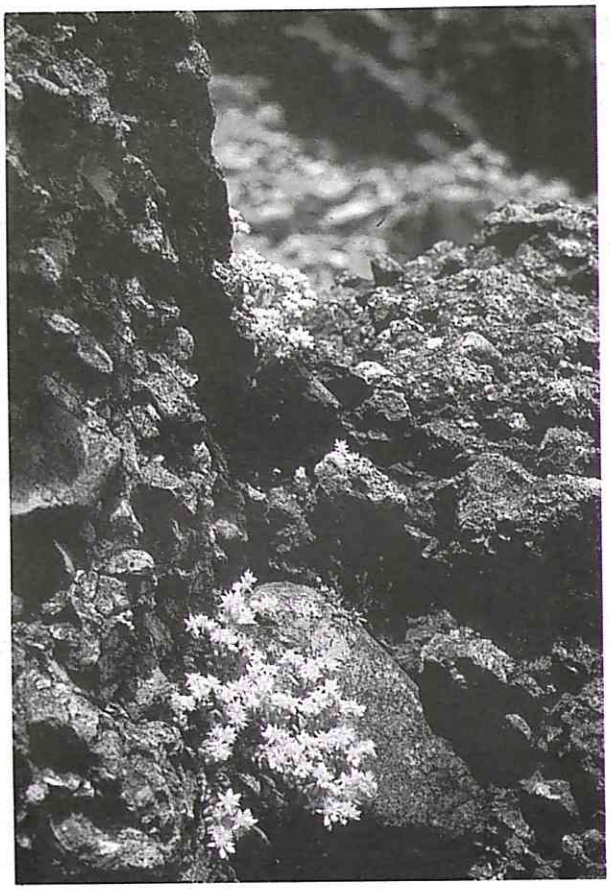
佐渡では内陸のヤブカンゾウをカンゾウ（方言）、海岸のトビシマカンゾウをヨーラメまたはコーラメ（方言）と区別して呼ぶ。ヨーラメ・コーラメは魚（ヨー・コー）孕み（ハラミ）花（バナ）の略。この花が咲く頃、磯に卵を孕んだ魚がやってくる。タイ（マダイ）、サバフグ（ゴマフグ）、コイカ（スルメイカの小さいもの）、コチがやってくることを告げる魚告花である。「ヨーラメが咲くと、海は生きかえり村にやってくる」と村人はいう。今年の漁を、豊漁を祝う予祝花でもある。

Ⅶ、保護

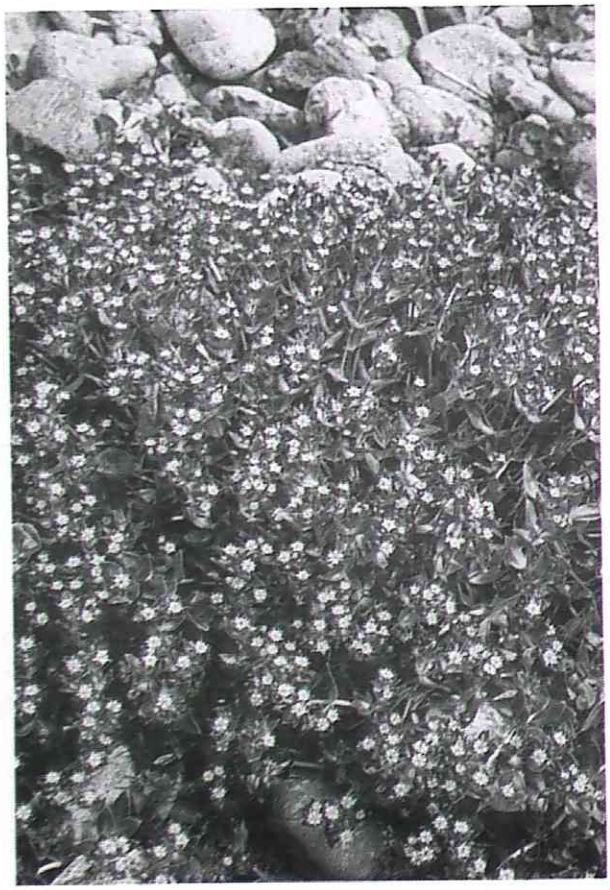
大野亀のトビシマカンゾウ群落は「新潟県の特定植物群落」（1978）に、また「新潟のすぐれた自然・すぐれた貴重植物群落」（1983）に指定されている。また現地は「佐渡弥彦国定公園・第一種特別地域」（1950）に、「名勝佐渡海府海岸」（1933）指定されている。「佐渡弥彦米山国定公園」（1970）指定されているが、特に「大野亀・二つ亀地域は、佐渡弥彦米山国定公園の特別保護地域」に格上げ（1994）される予定である。

いとうくにお（新潟県自然環境保全審議会専門調査員）
現住所 〒952-12 新潟県佐渡郡金井町千種 106-3

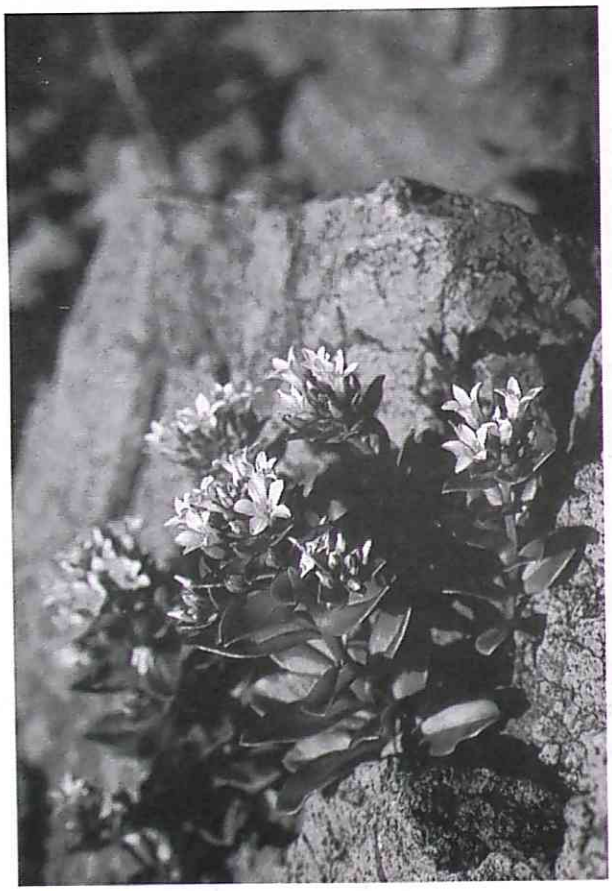
岩場のキリンソウ



岩場のメノマンネングサ



北方要素のハマハコベ



岩隙間のハマボッス